

放課後等デイサービス たんぽぽ 支援プログラム

1. 「健康・生活」

- ・健康状態の維持・改善
- ・生活のリズムや生活習慣の獲得
- ・基本的な生活スキルの獲得

(支援内容)

- ・健康状態の把握
- ・活動前等に検温や表情、様子、声かけなどから健康状態のチェックを行う。利用中に体調の変化や訴えがあった場合は、保護者に連絡するなど対処する。
- ・基本的な生活スキルの獲得・・食事、衣類の着脱、排泄、身なりを整える、整理・整頓・清掃、手洗いなどの自立訓練を実施する。

(具体的な活動内容)

- ・散歩、体操、室内スポーツ、ストレッチ、体操などの健康維持につながる活動。
- ・食事、排泄、整理、整頓等の自立支援は、その都度、職員が指導を行う。

2. 「運動・感覚」

- ・姿勢と運動・動作の向上
- ・保有する感覚・能力の活用

(支援内容)

- ・姿勢と運動・動作の基本的能力の向上・・生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善や習得、関節の拘縮や変形の予防、能力の維持・強化などの支援。

(具体的な活動内容)

- ・散歩（下肢の機能訓練、健康維持・増進） ボーリング（上肢・下肢の機能訓練）
- ・風船バレー（上肢・下肢の機能訓練、瞬発力を養う）、ストレッチ、体操等
- ・レクレーション、創作活動（手先の機能訓練や視覚、聴覚、触覚等の感覚を活用できる活動支援）

3. 「認知・行動」

- ・認知の発達と行動の習得
- ・空間・時間・数等の概念形成の習得
- ・対象や外部環境の適切な認知、行動の習得

(支援内容)

- (1) 感覚や認知の活用・・・視覚、聴覚、触覚を活用して必要な情報を収集して認知機能の発達を促すための支援。
- (2) 環境、職員等の声かけから情報を取得し行動につなげられるような支援。
- (3) 物の機能、形、色、音、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。
- (4) 活動等で利用者の発達段階に応じて数量、形、大きさ、重さ、色の違い等の習得のため具体的な働きかけ声かけ等の支援
- (5) 利用者各自を適切に評価し認知の特性を把握し情報を適切に処理できるように職員の支援内容を調整していく。
- (6) 強度行動障害児童への支援・・・認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害に対して事前に環境調整などの対応をし落ち着いて過ごせるように支援を行う。

(具体的な活動内容)

- ・創作活動（絵を描く、ぬり絵、折り紙、工作）
- ・農業体験（野菜や花の成長する過程を見てもらう事で大きさ色、形などを認識してもらったり収穫した野菜を食べてもらうことで味覚なども認識してもらう。
- ・レクレーション（間違い探しクイズ）により二つの絵を見比べて形、色、大きさ、数等の違いを区別できる能力を養ってもらう。また、空間、時間等を意識したレクレーション等も活動として支援する。
- ・強度行動障害児等の支援に関しては、落ち着いて過ごせる環境の提供と本人にとってわかりやすい活動の提供する。その際、声かけや絵カード予定ボードでの提示により見通しを持ってもらえるように支援する。

4. 「言語・コミュニケーション」

- ・言語の形成と活用
- ・コミュニケーションの基礎能力の向上
- ・コミュニケーションの手段の選択と活用

(支援内容)

- (1) 職員が利用者一人一人を適切に評価し、具体的な事や体験と言葉の意味を結びつけるように支援する。また、言語の習得、自発的な発声を促すように支援を行う。
- (2) 集団活動において仲間との関係性や交流によってコミュニケーションの獲得、能力向上のための支援を行う。
- (3) 指さし、身振り、サイン等の活用・・・利用者個々に応じたコミュニケーションの手段により環境の理解や意思表示できるように支援する。
- (4) 読み書き能力の向上のための支援・・・利用者個々の障害特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。

- (5) 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用・・・利用者の障害種別に応じて手話、点字、感触等のコミュニケーション手段の活用により環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。
- (6) 予定表や絵カード、タブレット等の機器等のコミュニケーション手段を使って環境の理解や意思伝達できるように支援する。

(具体的な活動内容)

- ・ 集団活動全般を通して仲間との交流の中で会話によるコミュニケーションなどで協力や関係性を深めてもらえるように支援する。また、障害の種別に応じて、文字や絵カード指さし、身振りなどの手段を用いてコミュニケーションをはかり、わかりやすく支援する。
- ・ 文字・数字パズル等のツールを使ったり絵本の読み聞かせなどにより文字や数字への理解力なども意識してもらえるように支援する。

5. 「人間関係・社会性」

- ・ 集団活動による他者との関わりを通して人間関係の形成
- ・ 自己の理解と行動の調整
- ・ 仲間づくりと集団への参加

(支援内容)

- (1) 人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、仲間や周囲の人と安定した関係を形成できるように支援する。職員と利用者との信頼関係を築くことが大切である。
- (2) 利用者の発達段階に応じて感覚遊びを使った遊びや、ごっこ遊び、さらに、いろいろな集団活動を通して人との関わり方を体験してもらう事により徐々に社会性を身につけてもらえるように支援する。
- (3) 集団行動が苦手な利用者に対しての支援・・・周囲に他者がいても無関心な状態から平行に職員が介入し役割分担やルールを守って活動する中で内容や集団の大きさを徐々にステップアップをはかり社会性の発達につながるように支援する。
- (4) 集団への参加の支援・・・利用者が自発的に集団に参加し手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加出来るように支援する。

(具体的な活動内容)

- ・ 事業所での集団活動全般を通して仲間を意識した交流を通して親密な関係を続く中で協力や助け合いの関係性を築けるように支援する。
- ・ 外出による買い物、外食、娯楽施設での財布を持参して代金を支払う買い物体験を通して社会性を身に付けてもらう。また、水族館、動物園、美術館、博物館、工場見学などの社会見学を通して他者との関わりや社会性を身に付けてもらう。

